

第 34 回委員会（2004.10.28 開催）結果報告		2004.10.29 庶務発信
開催日時：	2004 年 10 月 25 日（月）13：30～17：05	
場 所：	マイドーム大阪 3 階展示場 F	
参加者数：	委員 27 名、河川管理者（指定席）18 名、一般傍聴者（マスコミ含む）200 名	
<p>1．決定事項：特になし</p> <p>2．審議の概要</p> <p>状況報告</p> <p>庶務より資料 1「前回委員会(2004.9.29)以降の状況報告」を参考に開催状況について報告がなされた。</p> <p>ダムWGの検討経過報告と意見交換</p> <p>庶務より資料 2-1「開催経過」を参考にダムWG開催状況について報告がなされた後、河川管理者より資料 2-3「ダムWGの資料抜粋」を参考に報告がなされた。さらに今本ダムWGリーダーより資料 2-2「ダムWGについての検討経過メモ(041025)」を用いて説明がなされた後、主な論点について意見交換が行われた。主な意見は以下の通り（例示）。</p> <p>想定する目標洪水規模について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既往最大実績洪水か、既往最大雨量の降雨パターンによる引き伸ばしか。どちらを想定するかによって、ダムの結論が大きく変わってくる（ダムWGリーダー）。 ・ 予算、期限、実現可能性を考えれば、引き伸ばし降雨ではなく、実績洪水を対象にした方がよい。 ・ 「死者を出さない」「生活再建可能」といった社会的被害を基準にした考え方も必要だ。 ・ 今回の河川整備計画では、従来とは違う治水の考え方や川が川をつくるという理念を打ち出している。目標洪水規模についても既往最大の実績洪水で検討すべきだ。 ・ 河川管理者が上野地区で想定している目標洪水規模（降雨パターンによる引き伸ばし降雨）は妥当だと考えている。ただ、実績洪水も引き伸ばし降雨も目安の1つであり、絶対ではない。地元住民の意見を聞いて、地域ごとに決めればよい（委員長）。 ・ 河川管理者は狭窄部上流には既存最大規模を用いると言いながら、猪名川の既往最大は実績降雨であり、ダブルスタンダードとなっている。「実績雨量を実績パターンで検討しているから実績」だという言い方はやめて欲しい。それは仮想の降雨である（ダムWGリーダー）。 ・ 高時川流域の目標洪水規模を決めなければ、丹生ダムの検討ができない（委員長）。 <p>高時川流域は滋賀県が管轄しており、現在、住民への聴取や川づくり会議の開催により計画の検討を進めている。これらを消化した上で、委員会に説明したいと考えている（河川管理者）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 目安として「分かりやすさ」が重要。目安としてなら、既往最大の実績洪水がふさわしい。 ・ 住民の視点から考えると、わかりやすい目安は大切だ。また、住民を含めて私たちは一緒に責任を持つという転換が一番大事なところである。 <p>「住民がどう思うか」というのは大変気にしており、既存最大流量をとる方がわかりやすいが、そうすると従来の計画よりも効果が小さくなる。河川管理者としては既往最大流量ということでは、地元の人々に説明がつかないということに至った（河川管理者）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民には、従来の考え方の場合と新しい考え方の場合についてどうなるか、また従来の考え方とは違う方法で治水安全度を確保していくということを説明する必要がある。 <p>環境について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ダムによって環境がどの程度悪くなるのか。その影響にどう対応していくのか。ダム以外の問題に 		

対しても早く提出して欲しい。

環境に与えるダムの影響とその対応策はまだ説明できていない。現在のところ、ダム本来の目的、必要性についての議論がなされている（河川管理者）。

- ・代替案を検討してダムによらざるを得ないとなった時にダムの環境への影響を検討し、ダムの是非を決めるという検討順序だったが、それは違うのではないか。ダムやその代替案を検討する際にそれぞれの環境への影響も検討して、それぞれ比較、考慮する必要がある。
- ・丹生ダムの琵琶湖の水質への影響については、琵琶湖研究所と河川管理者で見解が一致していない。よく分からない場合には、予防原則をベースに考えていくべきである。

利水について

- ・節水キャンペーンは、キャンペーンで終わらせて欲しくない。具体的な数値目標（何年先に何%の節水）を持った取り組みをお願いしたら、市町村ではアジェンダとして市民と一緒に節水活動に取り組んでいる例もあるので、こういった活動との連携もお願いしたい。

地域部会における検討経過報告

庶務より資料 3-1「開催経過」を参考に地域部会の開催状況について報告がなされた後、地域部会部会長より各部会の検討状況について報告がなされた。

台風 23 号の被害状況報告

河川管理者より台風 23 号によって甚大な被害が発生した円山川と由良川の状況についてスライドを用いて説明がなされた後、意見交換が行われた。

- ・亀岡、保津川あたりで溢水が発生したにも関わらず、地域住民はダムがあるから安心だと思っている。身近の川の危険性を知ってもらうために、それぞれの河川別に住民向けのシンポジウムを開催する必要がある。

前向きに検討したい（河川管理者）。

3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 7 名より発言があった。主な意見は以下の通り（例示）。

- ・岩倉峡の現在の流下能力を算定せずに、上野地区の氾濫シミュレーションをしているのが不思議でならない。河川管理者は現在の岩倉峡の流下能力を調査すべき。
- ・上野遊水地は岩倉峡よりも低い場所にあるので、上野遊水地を掘削すると湿原のようになってしまいうだろう。ここに貯まった水をどのように排水すればいいのか。考慮した上で検討して欲しい。
- ・地元の住民意見の反映について改善をお願いしたい。ダムWGが河川管理者に対して資料提出を求めていたにも関わらず、住民説明会で出た意見を取りまとめた資料がいまだに提出されていない。
- ・委員会は平成 13 年の取水実績を河川管理者に提出するよう要求して欲しい。
- ・委員会は、すでに水需要の中間報告を出した大阪府営水道の資料を要求し、具体的な検討を進めて頂きたい。全ての精査確認結果を待つのではなく、1つでもより突っ込んだ検討をお願いしたい。
- ・上野地区の住民としては、既往最大規模の降雨をさまざまな降雨パターンで検討してほしい。
- ・河川整備計画の対象が 20～30 年であることを考慮すれば目標規模は既往最大実績洪水にすべきだ。

4. その他

河川管理者より、流域委員会の新規委員募集について報告があった。

以上

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。